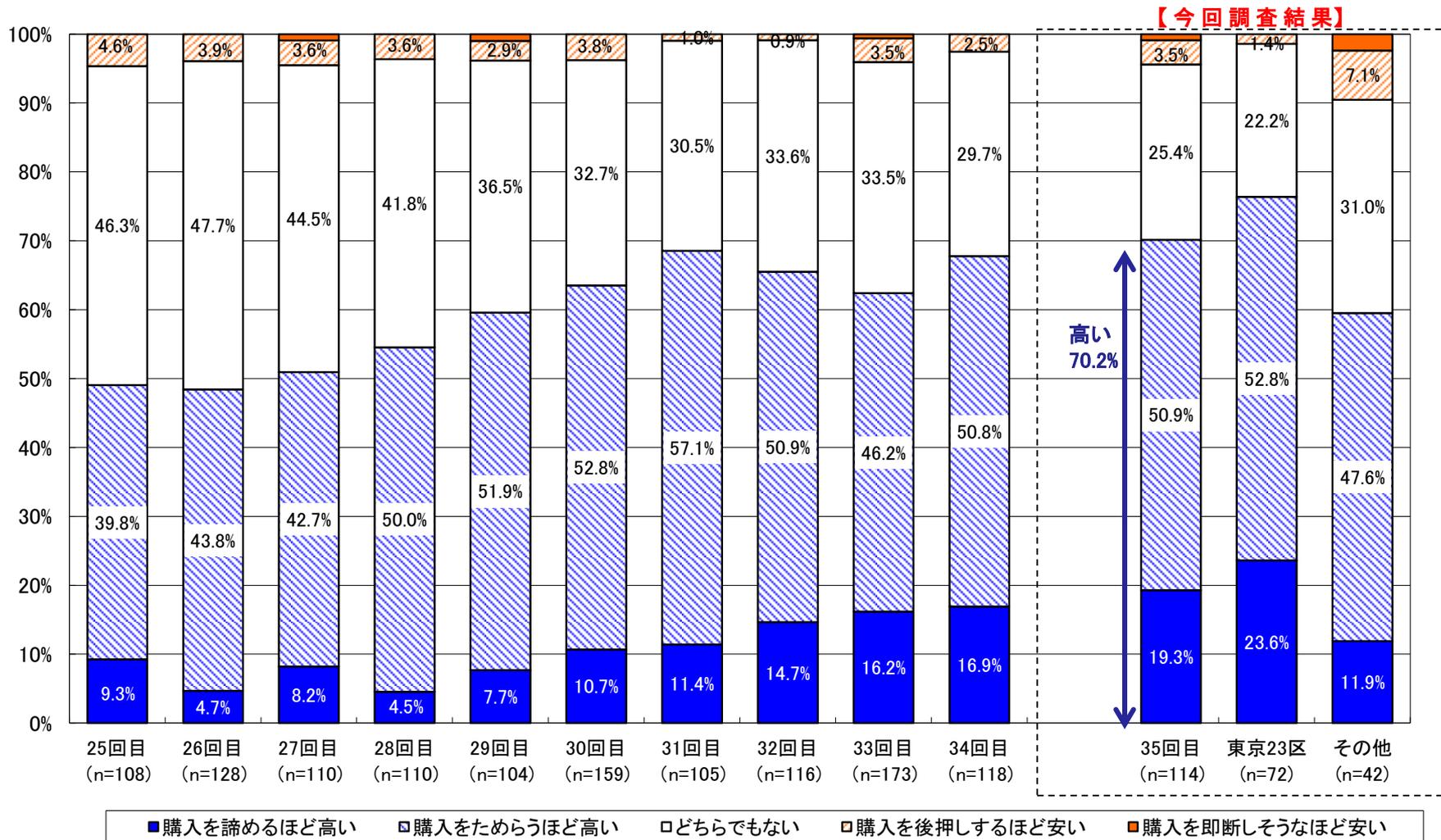


現在のマンション価格に対し「高い(購入を諦めるほど+ためらうほど)」との回答が、過去最高値となる7割に達した。中でも、「購入を諦めるほど高い」の割合が2015年4月以降増え続けている。

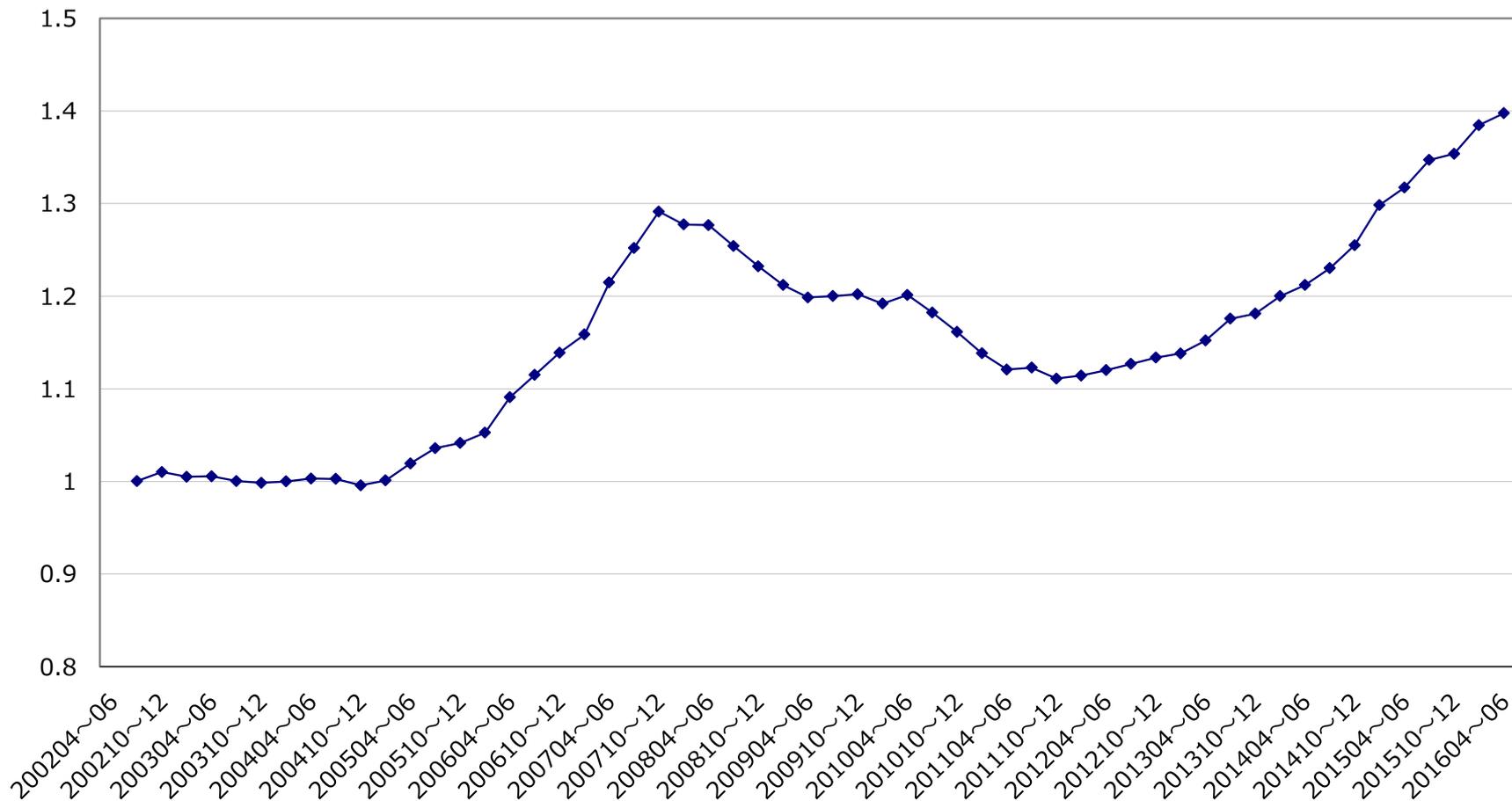
図1.「現在の物件の購入価格(分譲価格・金利・税制含む)についてどのように感じているか」



首都圏の新築マンション価格は、2006-2007年のミニバブル期を超え、高い水準を維持している。

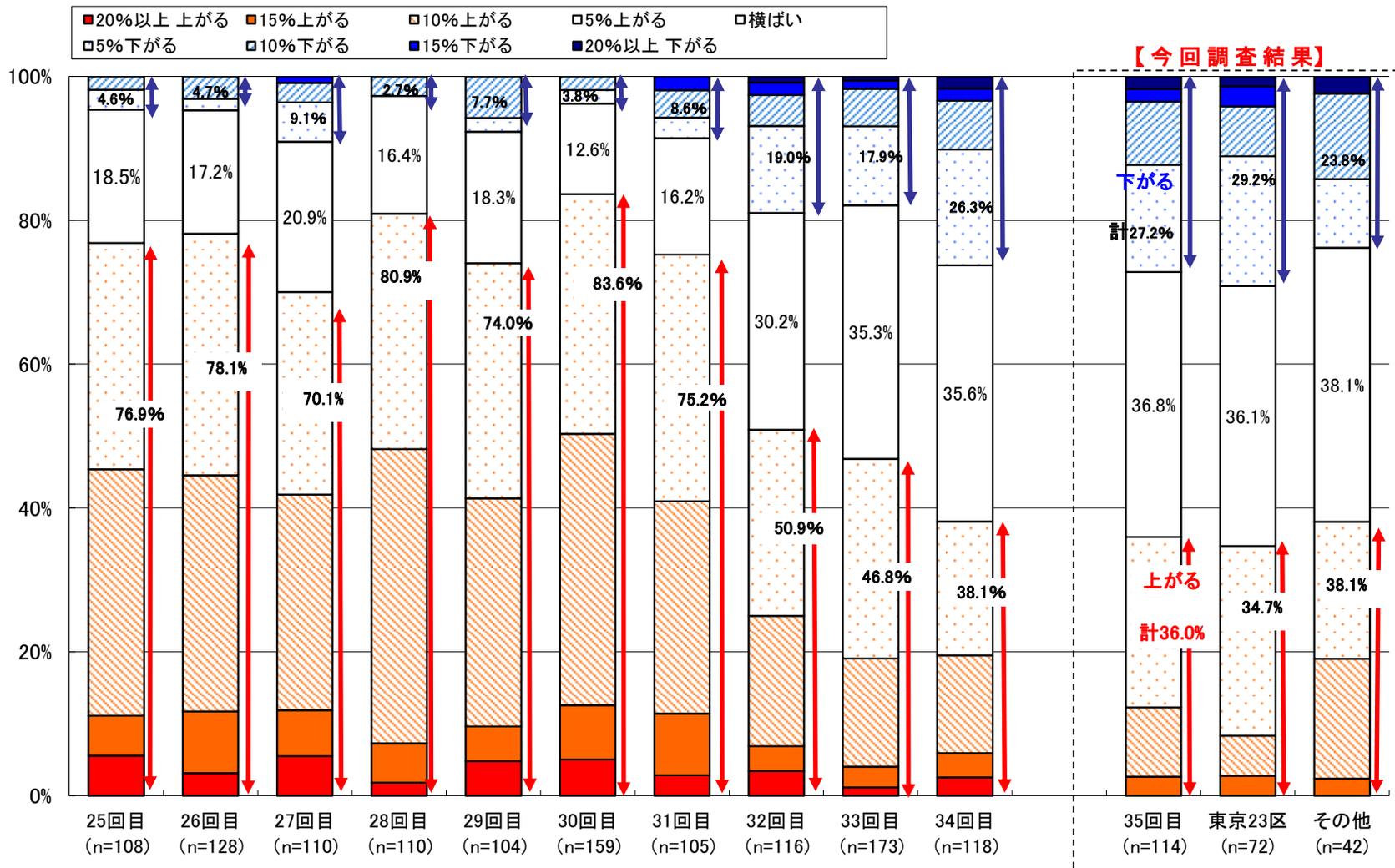
図2.首都圏新築マンション価格指数

首都圏新築マンション価格指数



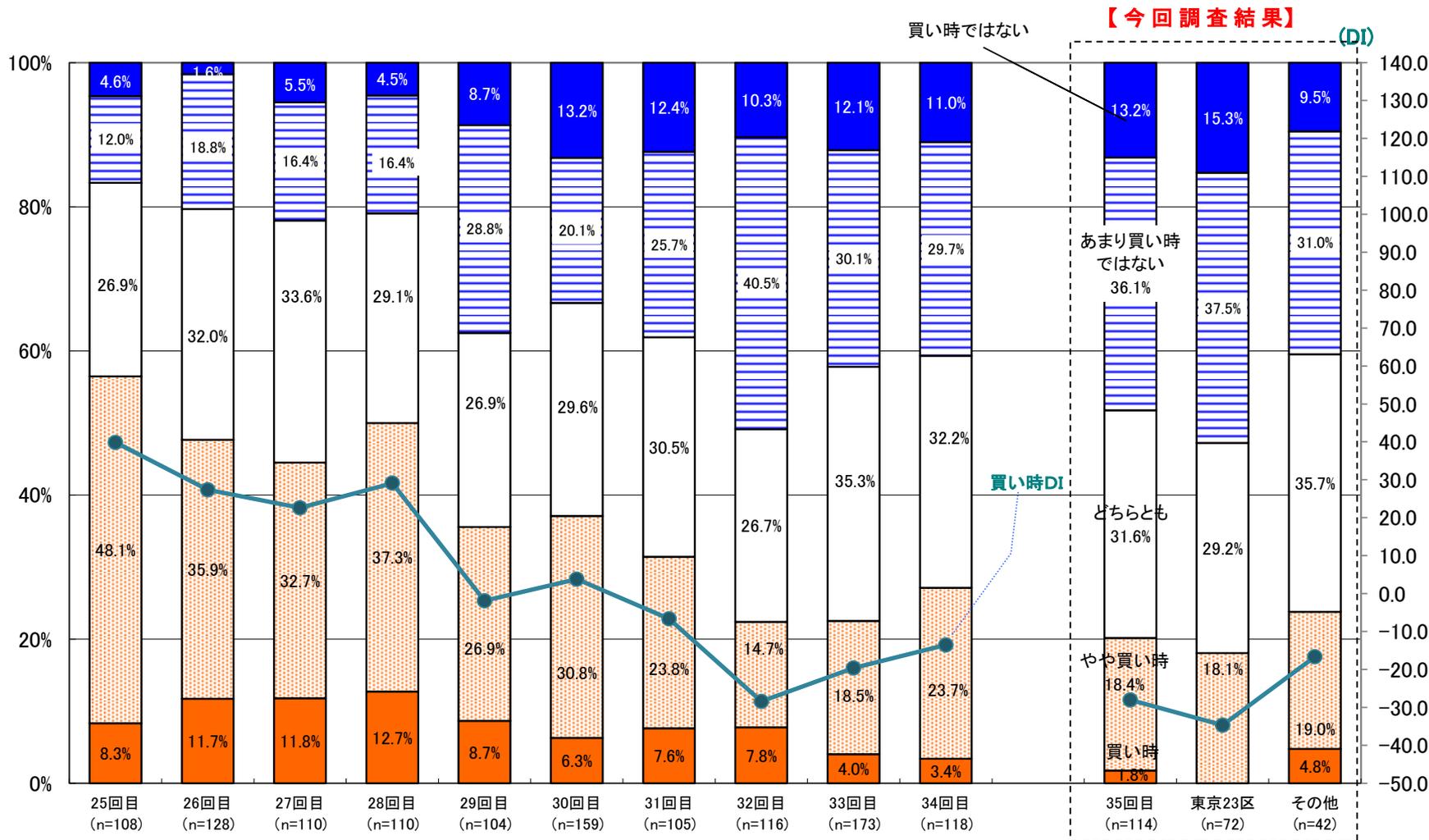
1年後の価格変化については、「上がる」との予想が前回に比べ-2.1ポイント減少し、「横ばい」と「下がる」が微増している。「1年後の価格が上がる」との回答は、1年前から減少し続けている。

図3.「1年後の価格変化」



買い時DI(※1)は-28.1ポイント。買い時ではない(あまり+買い時ではない)との回答が5割弱を占める。「買い時である」と回答した人は、その理由に低金利を挙げる人が多く、「どちらともいえない」の理由には景気の不安定さを、「買い時ではない」の理由には価格水準の高さを挙げる人が多い。

図4.「買い時かどうか」



※1 買い時DI: 「買い時だと思う」の数値から「買い時だと思わない」の数値を差し引いて算出した値。

購入意欲が「増した」との回答は31.6%と、前回(2016年7月)より9.1ポイント減少。「以前から変わらない」は43.9%と、前回から4.1ポイント増えた。

図5.「購入意欲の変化」

